

とよしの業績

令和7年度の豊橋信用金庫の業績と経営内容についてご報告します。



経営環境と重点方針

令和7年度の日本経済は、米国の通商政策の影響が残るものの、雇用・所得環境の改善を背景に、緩やかに回復しました。一方、中小企業の取り巻く経営環境は、物価変動や賃金水準の上昇等によるコスト増から収益の不透明感が強く、各事業者が抱える課題はますます多様化し、人手不足も事業運営に深刻な影響を与えています。

当金庫は、金融環境が変化中、地域の持続的な発展のため、当金庫の強みである地域社会やお取引先が抱える課題解決やお取引先に寄り添った経営改善、事業再生支援など、実情に応じた事業者支援に力を注ぐとともに、堅実で健全な金庫運営に努めてまいりました。

令和8年度は、3カ年計画「TOYOHASHI THINKING First Innovation ～営業店を『手続きの場』から『エールの場』へ～」の最終年度であり、営業店を「エールの場」へ変化させる取組みの集大成となる年度となります。

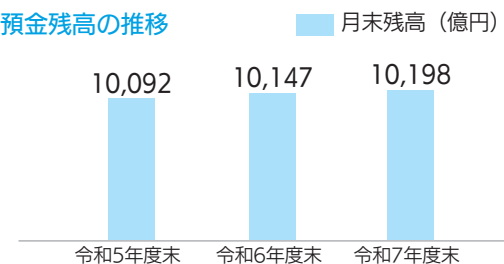
変化の激しい社会経済情勢の中、地域やお取引先の多様化するニーズを捉えるため、当金庫役職員全員が自ら考え行動することで、お客様との対話を増やし、付加価値を生み出す力を広げ、地域とともに生きる金融機関としての役割を果たしてまいります。

預金の状況

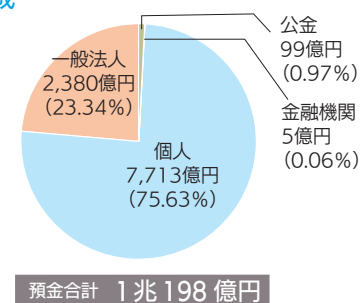
預金積金は、期末残高で1兆198億円、前期比50億円(0.5%)の増加となりました。

金融環境が変化するなかで、取引基盤の拡充に努めて地区内シェアの拡大に重点を置いた活動を展開したことにより、着実に増加することができました。

●預金残高の推移



●預金者の構成



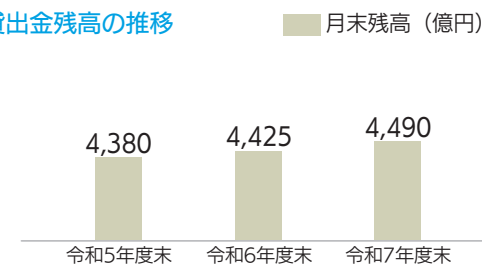
預金積金に占める貸出金の割合 預貸率 44.03%

貸出金の状況

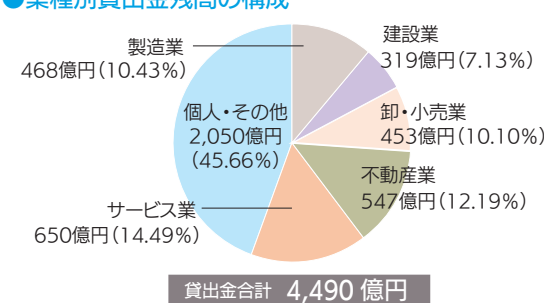
貸出金は、期末残高で4,490億円、前期比64億円(1.4%)の増加となりました。

コンサルティング機能を発揮して付加価値を提供するなど課題解決型金融の取組み等を進めて資金需要に的確に対応したことにより、着実に増加することができました。

●貸出金残高の推移



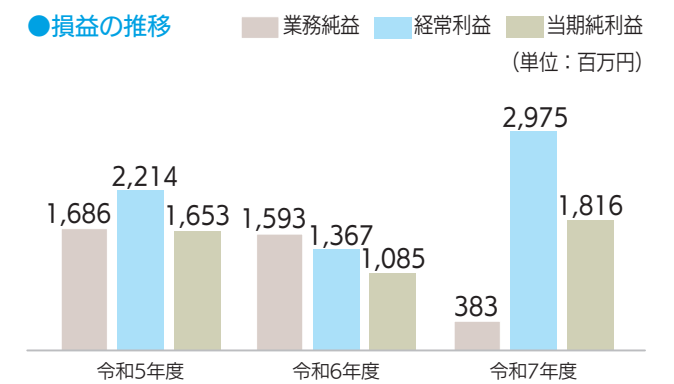
●業種別貸出金残高の構成



損益の状況

安全性を重視した資金運用や経費の削減など、経営体質の強化に努めた結果、業務純益は3億83百万円、経常利益は29億75百万円、当期純利益は18億16百万円を計上しました。

●損益の推移



自己資本の状況

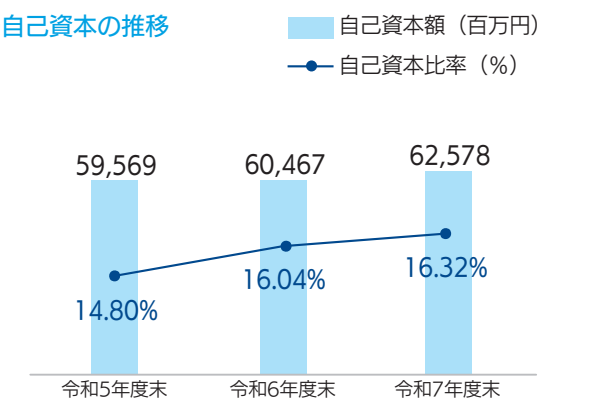
自己資本と自己資本比率は、金融機関の健全性や安全性を示す重要な指標で、自己資本比率が高いほど経営が健全で堅実、安定しているとされています。

自己資本比率の分子である自己資本の額は、安定した利益の計上により、625億78百万円となりました。一方、分母にあたるリスク・アセットは、構成の変動等により、3,834億33百万円となり、自己資本比率は16.32%と高い水準を維持しております。

今後も、資産の健全性の向上を図り、健全経営を維持し、引続きお客様が安心してお取引いただける金融機関を目指してまいります。

※自己資本の状況については、資料編19～42ページをご参照ください。

●自己資本の推移



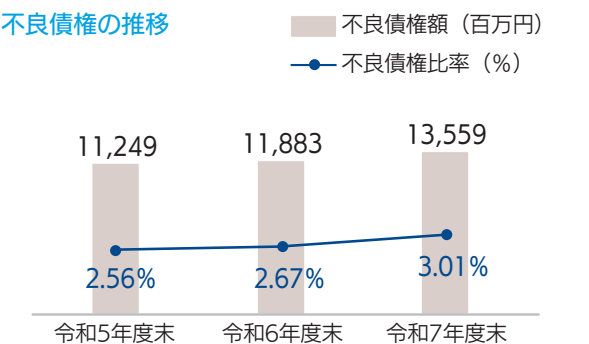
国内基準
4%を
大きく上回って
います

不良債権の状況

信用金庫法の開示債権は、総貸出金に債務保証見返、未収利息等を加えた総与信を対象としております。令和8年3月末の不良債権は、総額135億59百万円、総与信に対する不良債権比率は3.01%と低い水準を維持しております。

※不良債権の状況については、本編26ページをご参照ください。

●不良債権の推移



財務状況等のより詳細な情報については、当金庫ホームページ掲載の「資料編」をご覧ください。

